

特別号

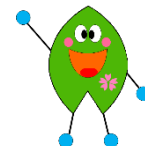
～夢と希望のわが母校～

【本校の教育目標】



光春小だより

- 元気な子
- 思いやる子
- 考える子



R5. 2. 28

練馬区立光が丘春の風小学校

校長 内木 勉

春風ちゃん

〒179-0072 練馬区光が丘7-2-1

Tel 3976-5861

Fax 5383-3592

学校評価集約

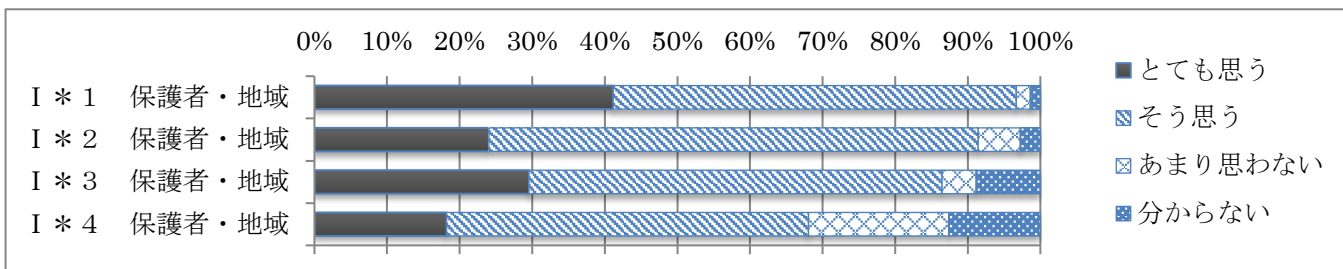
【保護者・地域向け】

数 保護者・地域数

362 (73%)

I 教育活動全般について

I * 1	子供たちは、楽しい学校生活を過ごしている
I * 2	学校の施設、設備等の教育環境が整備されている
I * 3	子供についての悩みや相談をよく受け止めている
I * 4	タブレットを使用した授業が有効である



< I * 3 について >

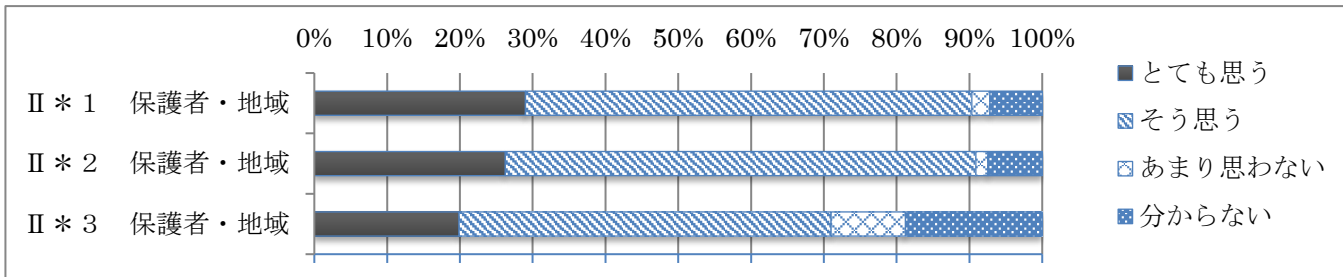
肯定的な評価が8割を大きく超えて増えてきている。校内委員会を中心にスクールカウンセラーや心のふれあい相談員、生活支援員および教員との情報共有を進め、子供たちの心の変化やサインに気付けるよう、教職員全体で努めていることが成果として出ている。相談室の利用も増加傾向にあり、子供たちの悩みや相談を受け止めるための環境を今後も整えていく。

< I * 4 について >

児童一人一人にタブレット端末が配布されたことにより、学習における活用の機会が増え、児童も端末の操作に慣れてきている。学習においては、ミライシード等の機能を使って、児童が相互に意見をやり取りしたり自分の考えを発信したりする機会を徐々に取り入れてきている。端末を使用した授業の有効性については、7割弱の肯定的意見があり、昨年度から増加の傾向にある。今後も、家庭と連携しながらタブレット端末の活用を進める。

II 学習指導・学力向上について

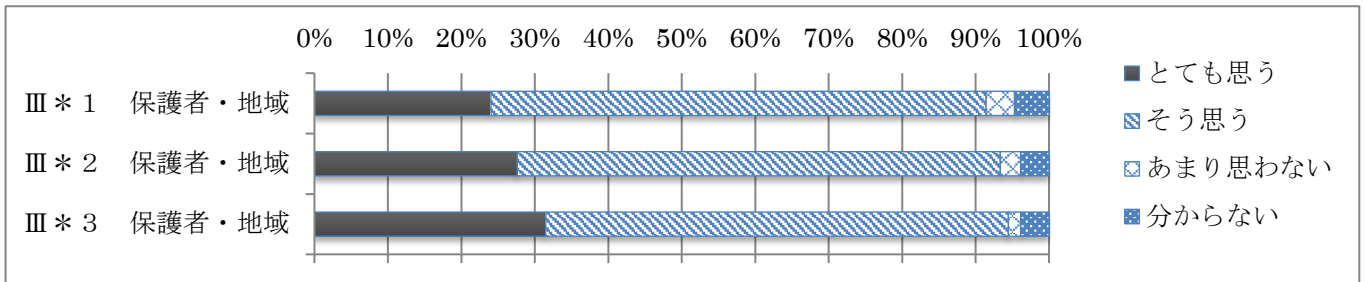
II * 1	学校は、楽しく分かりやすい授業を工夫している
II * 2	学校は、子供に学年に応じた学力を身に付けさせている
II * 3	学校は、教師以外の人材とも協力した授業を工夫している



< II * 3 について >

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、外部人材を招いた学習活動について制限されることがあったが、昨年度に比べ、多くの活動を実施することができた。学校支援コーディネーターやおやじ会、避難拠点連絡会の協力も得て、多方面の外部講師を招いての体験的な活動を実施したこともあり、今年度は肯定的な評価が7割程度と増えている。今後も感染状況を鑑みながら、計画的、継続的な学習内容を図っていくとともに、学校ホームページや学年だより、学級だよりなどで積極的に活動を周知していく。

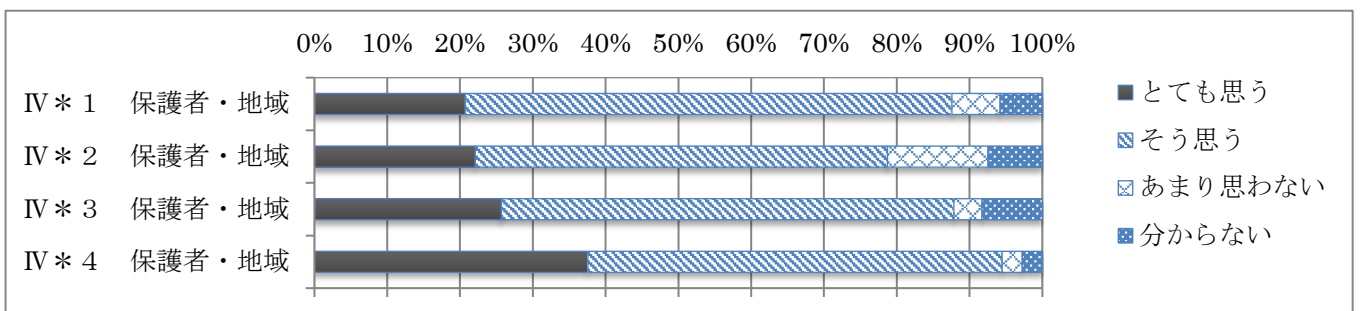
Ⅲ 社会性や人間性の育成について	
Ⅲ＊１	学校は、挨拶や言葉遣い等の基本的な生活習慣が身に付くように指導している
Ⅲ＊２	学校は、道徳授業や日常生活を通して思いやり等、「心の教育」に努めている
Ⅲ＊３	学校は、行事や生活指導等を通して集団のルールや規範意識を育てている



<Ⅲ 全般について>

道徳授業や学級会での話し合いを通し、「心の教育」や規範意識の育成を続けてきたことで、肯定的評価が9割を超えている。小中合同で行った挨拶運動では、積極的に活動に関わろうとする児童の姿が多く見られ、大きな成果があった。生活指導については、言葉遣いや休み時間の遊び方、廊下歩行等の面で課題も残る。みんなが安全に楽しく生活できるよう学校と家庭が連携して、共に指導を継続していく必要がある。

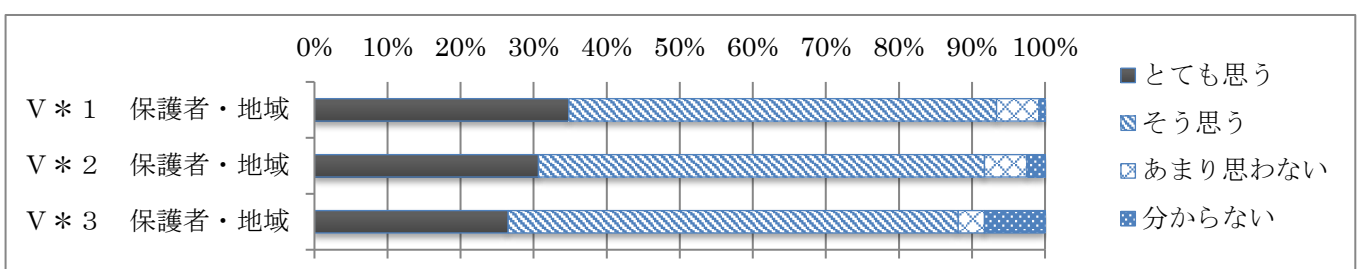
Ⅳ 健康安全指導や体力の向上について	
Ⅳ＊１	学校は、体育の授業の充実や体力づくりの取組に努めている
Ⅳ＊２	学校は、進んで運動したり、外遊びをしたりする子供を育てている
Ⅳ＊３	学校は、子供たちに健康や安全についての指導を適切に行っている
Ⅳ＊４	学校は、感染症対策に取り組んでいる。



<Ⅳ 全般について>

区のガイドラインに従って、適宜、感染症対策に努めてきた。Ⅳ＊４の項目は、肯定的評価が9割を超えている。今後も感染状況に応じて、行事の開催方法や人数の制限など臨機応変に対応を行う。Ⅳ＊２の項目では、新型コロナウイルス感染症による制限は緩和し、校庭で遊ぶ児童も増えてきた。ただ、熱中症対策で運動制限を出す日も増加傾向にあり、児童の健康と安全を確保しながら、可能な限り外遊びを奨励していくことが必要である。また、運動や外遊びに消極的な児童も一定数いる。持久走やなわとび月間、体育の授業において、体を動かすよさを経験させ体力向上を図っていく。

Ⅴ 保護者・地域との連携について	
Ⅴ＊１	授業公開や学校行事、保護者会等、学校を知る機会が十分ある
Ⅴ＊２	学校は、各種便り、掲示板、HP等で教育活動を分かりやすく伝えている
Ⅴ＊３	学校は、地域や保護者等とよく連携して教育活動を進めている

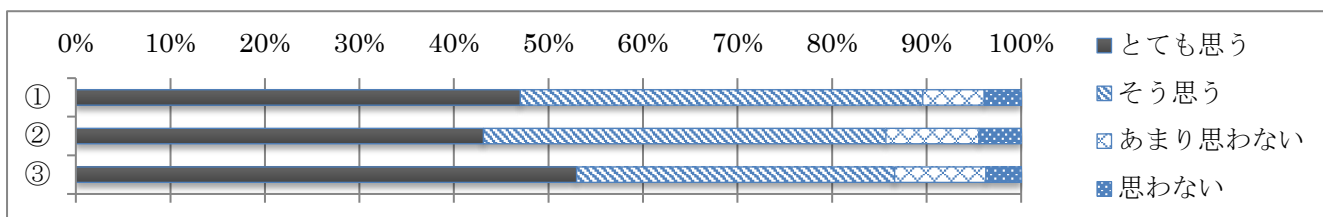


< V 全般について >

保教の会と連携した学校ホームページの活用や緊急連絡メールによる迅速な情報発信に努めたこともあり、項目 V*1・2 の項目では、9割を超える肯定的な評価を得られた。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で暫く中止していた春小フェスティバルや光が丘地区祭、応援団祭りが開催され、学校と地域、保護者が連携した取り組みを行うことができた。今後も今年の実績を基に保護者・地域と連携を深め、教育活動を進めていく。

【児童向け】

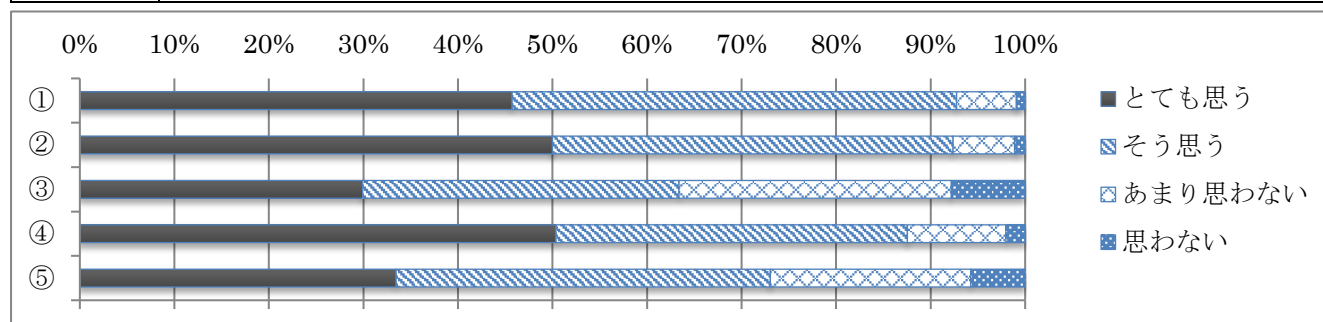
I 教育活動全般について	
①	学校は楽しいですか
②	学校には、困った時に相談できる先生がいますか
③	タブレットを使おうとしていますか



< I 全般について >

全般的に8割以上の肯定的評価が得られた。昨年度同様、気軽に相談できる相談室の雰囲気を大切に児童の面談などに取り組み、相談室への来室も増えている。今後もスクールカウンセラーや心のふれあい相談員、生活支援員など、担任以外の教員とも連携して、児童の悩みに寄り添える環境を整えていく。③の項目から、タブレット活用の意欲を8割以上の児童がもっていることが分かる。学習の中で徐々に児童がタブレットの操作に慣れてきたこともあり、更に学習での活用を図っていく。

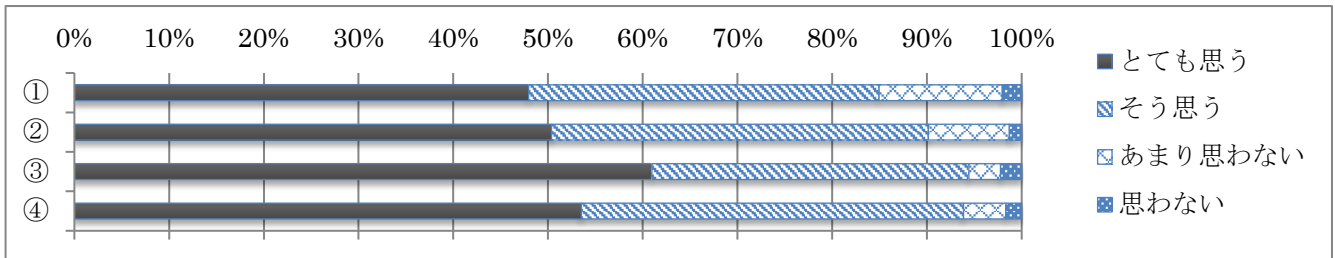
II 学習指導・学力向上について	
①	学校の勉強はよくわかりますか
②	先生の話や友達の発表をしっかりと聞いていますか
③	自分の考えや意見をすすんで発表していますか
④	何かを書いたり作ったりする時、丁寧にやっていますか
⑤	勉強がわからない時や困った時、先生にちゃんと伝えていますか



< II 全般について >

①②の項目から、学習について9割以上の児童が、よく話を聞いて取り組み、理解していると答えている。一方で、項目③・⑤のように、自分の考えや意見を発表することが苦手であったり、分からないことをそのままにしまったりする児童が3割程度いることが課題として残る。挙手をして発表することが苦手な児童にも、タブレットを活用して考えを書き込み、友達と共有する等、発言だけに頼らない意見の表出方法を取り入れるとともに、各教科において様々な発表形式を経験させ、人前で話すことに慣れさせていく。また、分からないことをそのままにしないよう、家庭とも協力しながら、既習事項の確認や見直しができる機会を取り入れ、指導していく。

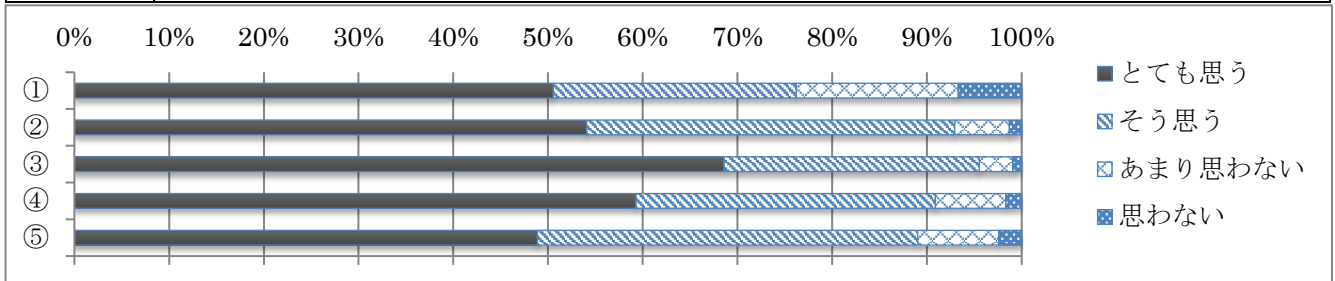
III 社会性や人間性の育成について	
①	先生や友達にすすんで挨拶していますか
②	当番や係など自分の仕事を忘れずにやっていますか
③	仲間はずれをしないで、みんなと仲良くしていますか
④	学校のきまりやルールを守り、安全に生活していますか



<Ⅲ ①②について>

項目①については、「とても思う」の評価が減少し、他の項目に比べて否定的評価の割合が多い。挨拶運動の機会だけでなく、日常的に挨拶をする習慣を身に付けられるよう、全教職員で指導をしていく。項目②については、「そう思う」が増加し、肯定的な評価が9割となった。要因の一つとして、学校生活における委員会や係、当番活動の制限が緩和され、徐々に通常の活動に戻ってきていることが考えられる。

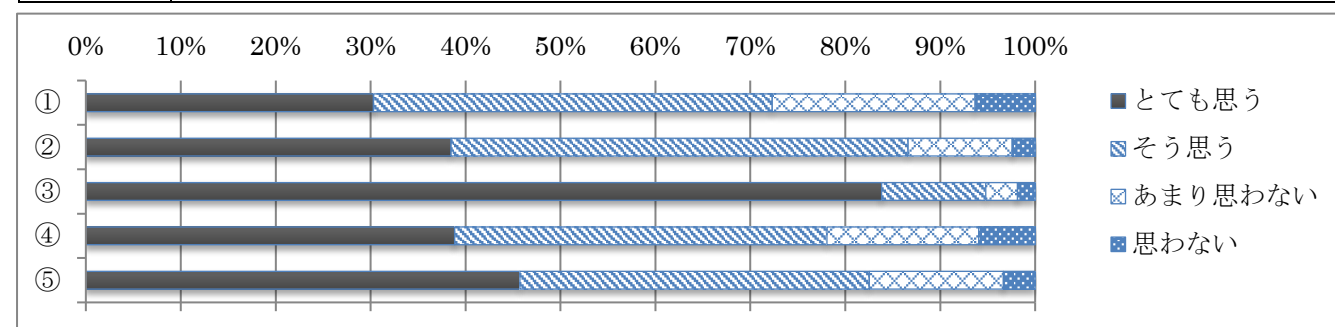
Ⅳ 健康安全指導や体力の向上について	
①	外で元気に遊んだり、すすんで運動したりしていますか
②	うがいや手洗いなど、清潔や健康に注意していますか
③	交通ルール（歩き方、自転車の乗り方など）を守っていますか
④	外での遊びの約束（遊び方、場所、帰る時刻など）を守っていますか
⑤	感染症にかからないために、マスクをしたり、近くの人と間を空けたりしていますか。



<Ⅳ 全般について>

①の項目については、休み時間に校庭に出て外遊びをする児童の数は昨年に比べ確実に増えているものの、児童の意識は下がっていることが分かった。体を動かすことに消極的な児童の割合が増えているものと考えられる。体育的行事や学習を通して児童の意識向上を図り、継続的に体力向上の取組を進めていく。③の項目については、「とてもそう思う」の割合が増加し、交通ルールを守ることへの意識がよく高まっている。今後も警察署と連携して安全教育を推進していく。

Ⅴ 保護者・地域との連携について	
①	早寝早起きをしていますか
②	授業に使う物の準備を忘れずにできていますか
③	朝ご飯を毎日食べていますか
④	お手伝いや家の仕事をやっていますか
⑤	家や学校の外の知り合いにもすすんで挨拶していますか



<Ⅴ 全般について>

③の項目では、肯定的評価が9割を超え、朝食を取る習慣が定着している。学校生活の全般を支える生活習慣であり、今後も家庭との共通理解を図っていく。また、①の項目では、「そう思う」と答えた児童の割合が増加しているものの、依然、3割近くの児童が否定的評価である。早寝早起きの規則正しい生活習慣を児童に身に付けさせるために、保護者と連携して指導を継続していく。